



【2018年4月2日～4月6日】

1. 先週の市場動向

【先週の市場の振り返り】

<株式>	先々週末 2018/3/30	先週末 2018/4/6	前週比
NYダウ (米国)	24,103.11	23,932.76	▲0.71%
日経平均株価 (日本)	21,454.30	21,567.52	0.53%
DAX指数 (ドイツ)	12,096.73	12,241.27	1.19%
FTSE指数 (英国)	7,056.61	7,183.64	1.80%
上海総合指数 (中国)	3,168.90	3,131.11	▲1.19%
香港ハンセン指数 (中国)	30,093.38	29,844.94	▲0.83%
ASX指数 (豪州)	5,759.37	5,788.74	0.51%
<リート>	先々週末	先週末	前週比
S&Pグローバルリート指数	172.77	172.88	0.06%
<債券> (利回り) (%)	先々週末	先週末	前週差
米国10年国債	2.739	2.774	0.035
日本10年国債	0.049	0.046	▲0.003
ドイツ10年国債	0.497	0.497	0.000
英国10年国債	1.350	1.396	0.046
<為替>	先々週末	先週末	前週比
ドル円	106.28	106.93	0.61%
ユーロ円	130.97	131.32	0.27%
ユーロドル	1.2324	1.2281	▲0.35%
豪ドル円	81.61	82.16	0.67%
<商品>	先々週末	先週末	前週比
商品 (CRB指数)	195.36	192.25	▲1.59%
原油先物価格 (WTI)	64.94	62.06	▲4.43%

<株式>

主要国の株式市場は高安まちまちとなりました。米国株式市場は、米中貿易摩擦激化への懸念の高まりや後退を受けて変動の大きい動きとなりました。週初は中国の報復関税発動により大幅に下落して始まりました。その後、米中の通商協議により貿易摩擦激化が回避されるとの見方から3日続伸となりました。週末は、トランプ大統領が1,000億ドルの対中追加関税を指示し、中国商務省も報復措置を示唆したことからNYダウは500ドルを上回る下落となりました。NYダウは週間では0.71%下落しました。日経平均株価は、米中貿易摩擦激化への懸念の高まりや後退を受けた変動の大きい米国株の影響から、様子見の強い動きとなりました。日経平均株価は、週間では0.53%上昇しました。欧州株式市場では、対ドルでのユーロの下落などを好感して独DAX指数は上昇しました。英国FTSE指数も上昇しました。中国株式市場は、上海総合指数、香港ハンセン指数ともに下落しました。

<債券>

主要国の10年国債利回りは小幅な動きとなりました。米国の10年国債利回りは、米中貿易摩擦激化への懸念の高まりや後退を背景とした米国株の動きをみながら一進一退の動きとなり、週間では金利は0.035%上昇しました。英国の10年国債利回りは上昇、ドイツと日本の10年国債利回りはほぼ横ばいとなりました。

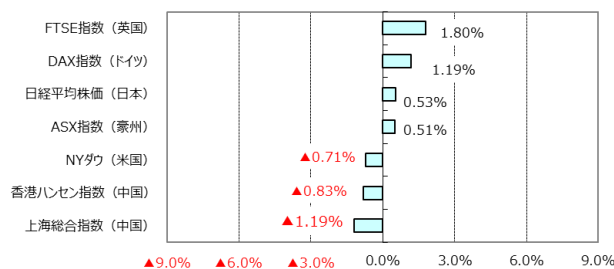
<為替>

円は主要国通貨に対して下落しました。対ドルでは米中貿易摩擦への過度な警戒が和らいだことから円安となりました。週末はトランプ大統領が1,000億ドルの対中追加関税を指示したことなどからやや円高にふれました。週間では0.61%の円安となりました。対ユーロでは、0.27%の円安となりました。

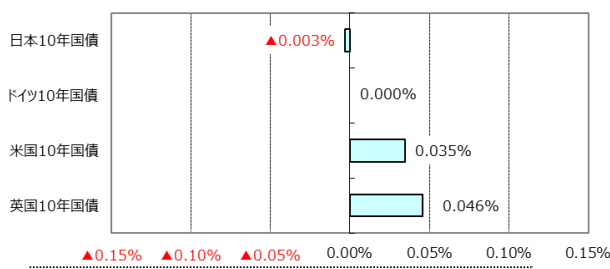
<商品>

原油は米国株が変動の大きい展開となりリスク回避姿勢が強まったことなどから、週間では4.43%下落しました。

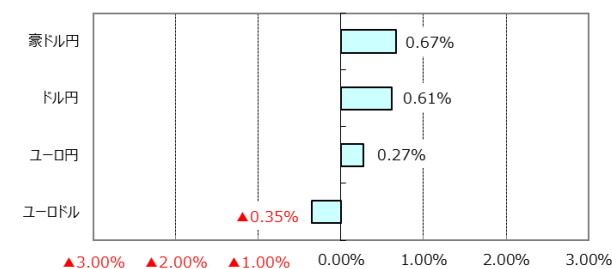
株式 (前週比)



10年国債利回り (前週差)



為替 (前週比)



※利回りの低下は債券価格の上昇を表します。

※ユーロドルのプラス表示はユーロ高・ドル安。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



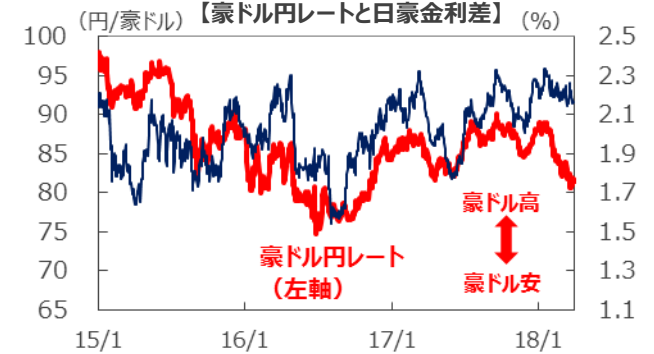
【2018年4月2日～4月6日】

2. 先週のマーケット・デイリー/ウィークリー

	テーマ	ポイント
4/2 (月)	先週のマーケットの振り返り	2018/3/26～3/30 マーケットの振り返り
4/2 (月)	世界の「投信マネー」(2018年4月)	1. 株式ファンドへの流入が続くが、「新興国」が減少 2. 債券ファンドは再び流入超だが、「新興国」が流出超
4/2 (月)	2018年3月は「新興国」ファンドへの資金フローに変化	3. 【「アジア」株式以外は流入超過額が細る】3月は前月に比べて、資金の流入超過額が細りました。2016年1月からの資金フローの累積額を見ると、株式ファンドでは「アジア」以外、債券ファンドでは主要地域すべてにおいて流入超過ベースが鈍化しています。
☆ 4/3 (火)	豪州の金融政策は18国会連続の据え置き(2018年4月) 物価目標達成までには時間を要する	1. 金融政策は現状維持、予想通り1.50%で据え置き 2. 当面、金利は据え置きへ、物価目標達成には時間を要する 3. 【豪ドルは落ち着きどころを探る展開へ】豪州の堅調な景気拡大、日本と豪州の金融政策の方向性の違い(日銀は金融緩和姿勢維持、RBAは据え置きの見通し)等を踏まえると、豪ドルは次第に落ち着きを取り戻すと見られます。
4/4 (水)	吉川レポート(2018年4月) トランプノミクスはいよいよ第2ステージへ	1. 経済成長促進策が先行したトランプ政権 2. トランプノミクスはいよいよ第2ステージへ 3. 【「管理された貿易摩擦」になる可能性が大い】お互いの出方を探るステージではリスクに神経質にならざるを得ないと見られます。しかし、最終的には、(1)黒字減らし策と、(2)知的財産やIT関連サービスを巡る貿易ルールをターゲットにした「管理された貿易摩擦」になってくると考えられます。
4/5 (木)	中国・アジア株式市場の見通し 米中貿易摩擦の進展に注目	1. 大幅調整となったアジア株式市場、相対的に戻りが鈍い、中国、アセアン 2. 米中貿易戦争に発展するリスクは高くない 3. 【アジア株式市場の見通し】中国が業績をけん引し、上昇基調を支えると期待されます。予想株価収益率は2006年以来的の平均値に回復しており、割高感はありません。株価は200日線も割れておらず、株価の上昇モメンタムは続いていると考えられます。
☆ 4/6 (金)	インフレが落ち着いてきたインドの金融政策(2018年4月) 政策金利は据え置き、物価見通しは下方修正	1. 政策金利は据え置き、6名中1名は利上げに投じた 2. 物価見通しを下方修正、野菜価格の落ち着きが主因 3. 【18年度は経済成長が加速する見込み】RBIは、インドの17年度のGDP成長率は+6.6%と、減速したと予想しています。また18年度の経済成長については、投資活動に回復が見られていることや、世界的な需要の改善などを背景に、+7.4%へと成長率が加速すると見込んでいます。

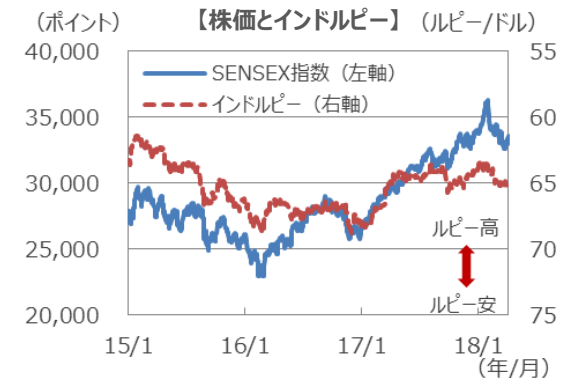
☆先週の市場動向に関連する代表的な「グラフ・図表」

☆4/3 豪州の金融政策は18国会連続の据え置き(2018年4月) 物価目標達成までには時間を要する



(注1) データは2015年1月2日～2018年4月2日。ただし、(年/月) 為替の直近値は2018年4月3日14時時点のもの。
 (注2) 金利差は豪州-日本。金利はともに3年国債利回り。
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

☆4/6 インフレが落ち着いてきたインドの金融政策(2018年4月) 政策金利は据え置き、物価見通しは下方修正



(注1) データは2015年1月1日～2018年4月5日。
 (注2) インドルピーは逆目盛。
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

☆ は右の「グラフ・図表」を参照。



【2018年4月2日～4月6日】

3. 今週の主な注目材料

日付	米国	日本	欧州	アジア・オセアニア・その他
4/9 (月)		2月国際収支・経常収支、貿易収支 3月景気ウォッチャー調査☆ 3月消費者態度指数	英3月ハリアックス住宅価格 独2月貿易収支	
4/10 (火)	3月生産者物価指数 (PPI) 2月卸売在庫 3月中小企業景況感指数			豪3月NAB企業景況感
4/11 (水)	3月消費者物価指数 (CPI) ☆ 3月連邦財政収支	2月機械受注 3月国内企業物価指数	英2月鉱工業生産、製造業生産 英2月貿易収支	中国3月CPI・PPI 豪4月ウエストバック消費者信頼感指数
4/12 (木)	3月輸入物価指数	3月マネーストック 3月東京オフィス空室率	ユーロ圏2月鉱工業生産☆	ブラジル2月小売売上高
4/13 (金)	4月ミシガン大学消費者センチメント指数 (速報)		ユーロ圏2月貿易収支	中国3月貿易収支☆
☆ 今週の注目点	今後の経済動向や金融政策を占う上で、3月消費者物価指数 (CPI) などが注目されます。	今後の景気動向を占う上で、3月景気ウォッチャー調査などが注目されます。	今後の金融政策を占う上で、ユーロ圏2月鉱工業生産などが注目されます。	中国の今後の景気や為替動向を占う上で、中国3月貿易収支などが注目されます。

※各経済指標・イベントは予定であり、変更されることがあります。

弊社マーケットレポート

検索!!

先週の注目の「マーケット・デイリー」

2018年4月6日 インフレが落ち着いてきたインドの金融政策 (2018年4月) 【デイリー】

2018年4月3日 豪州の金融政策は18会合連続の据え置き (2018年4月) 【デイリー】

先週の「マーケット・ウィークリー」

2018年4月2日 先週のマーケットの振り返り (2018/ 3/ 26- 3/ 30) 【ウィークリー】

先月の「マーケット・マンスリー」

2018年4月3日 先月のマーケットの振り返り (2018年3月) 【マンスリー】

先週の注目の「マーケット・キーワード」

2018年4月6日 今、注目の『ESG』投資って何? 【キーワード】



【2018年4月2日～4月6日】

【重要な注意事項】

【投資信託商品についてのご注意（リスク、費用）】

●投資信託に係るリスクについて

投資信託の基準価額は、投資信託に組み入れられる有価証券の値動き等（外貨建資産には為替変動もあります。）の影響により上下します。**基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。

運用の結果として投資信託に生じた**利益および損失は、すべて受益者に帰属**します。したがって、投資信託は**預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく**、一定の投資成果を保証するものでもありません。

●投資信託に係る費用について

ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。

- ◆直接ご負担いただく費用・・・購入時手数料 上限3.78%（税込）
 ...換金（解約）手数料 上限1.08%（税込）
 ...信託財産留保額 上限2.75%

- ◆投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用・・・信託報酬 上限年 3.834%（税込）

◆その他費用・・・監査費用、有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）、および外国における資産の保管等に要する費用等が信託財産から支払われます。また、投資信託によっては成功報酬が定められており当該成功報酬が信託財産から支払われます。投資信託証券を組み入れる場合には、お客さまが間接的に支払う費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用等に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用の状況により変化するため、あらかじめその上限額、計算方法等を具体的に記載できません。

※なお、お客さまにご負担いただく上記費用等の合計額、その上限額および計算方法等は、お客さまの保有期間に応じて異なる等の理由によりあらかじめ具体的に記載することはできません。

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友アセットマネジメントが運用するすべての投資信託における、それぞれの費用の最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面等を事前に必ずご覧ください。

●投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

●投資信託は、クローズド期間、国内外の休祭日の取扱い等により、換金等ができないことがありますのでご注意ください。

〔2017年12月29日現在〕

三井住友アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第399号

加入協会：一般社団法人 投資信託協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、これらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。